

第 13 回 寄附講義

7 月 1 0 日

講 師：西部ガス・カスタマーサービス株式会社
代表取締役社長 待井弘道（大 27 回）

西部ガスに就職し、人事労政部長や常務執行役員を経て現在西部ガス・カスタマーサービスセンターの代表取締役社長に就任されている待井弘道さんは、四極会福岡支部長も務めておられる。都市ガス会社の仕事や待井さんの歩いてきた会社員生活、現在の求人状況について語った。



1 西部ガスについて

エネルギー業界はガス、電力、石油の3つの産業からなる。ガス産業には都市ガスとプロパンガスがあり、西部ガスは都市ガスを生産・供給する。東京ガス、大阪ガス、名古屋の東邦ガスに次いで4番目に大きい。LNGを輸入して都市ガスを製造し、配管網を通じて送り、需要家に販売する。供給地域は福岡、長崎、熊本の3県。

都市ガスは石炭に比べ二酸化炭素発生量60%、窒素酸化物40%とクリーンで、採掘地が世界各地に分散するという供給安定性を有する。

2017年からの都市ガス全面自由化によって電力会社が都

市ガスを販売するようになり、現在九電が 10 万件と契約している。逆にガス会社も電力事業に参入し、西部ガスも 9 万件の電力供給契約を結んだ。その外にも多角化を進めており、現在売上高の 20%を占める不動産、非ガスエネルギー、食関連事業などガスエネルギー事業以外の構成比を 2026 年には 50%まで上げる目標を掲げている。

多角化に挑戦する意欲ある人材が欲しい。

2 西部ガスの採用状況等

女性社員に結婚・出産で辞める人はいない。みんな育休取得後復職する。

社員の内、大分大学卒業生は 7 名、うち経済学部 5 名、教育学部と工学部が各 1 名。2020 年のエントリーシート提出者 19 名の中からは残念ながら採用者は出なかった。就活はインターンシップに応募するなど早く動くこと。会社説明会を待っていたのでは遅い。志望理由で「九州が好きで九州に貢献したい」というだけでは弱い。熱い思いを訴えること。

3 私のサラリーマン人生年表

最初の配属は福岡支店総務課労務係。他の採用者はみんな営業で羨ましかった。しかし与えられた仕事が天職と考えて真剣に働いた。労務の仕事で社員から様々な相談が寄せられたときに、難しくても最初から No と言わずに何らかの解決方法を探るように心掛けた。現場はケーススタディーの宝庫である。自分で研究してわからなければ労働基準監督署や弁護士に聞きに行った。そのうち総務に待井ありと、周りから認められるようになった。

30 代になって労働組合の専従になり、本部書記長も経験した。組合活動を通じて社内外に横のつながりができ、人脈が広がった。

都市ガスは台風には強いけれども地震に弱い。1982 年の長崎大水害で 4,3000 戸の供給停止をしたときには、大阪ガス等からの応援がありがたかった。阪神淡路大震災では総務隊として 4 週間派遣された。東北地方太平洋沖地震のときは社員の中から都市ガス復旧隊派遣員を選抜する仕事を担当。責任感があり逃げない、落としどころをつかむ力があるなど

の視点から“使えるやつ”を選んだ。

硬式野球部の創設が思い出深い。社会人野球チームが九州から減っていく中で、会社のシンボリックスポーツとして社長命令で立ち上げた。反対が多かった経営会議で数名の幹部が強力に援護してくれて創部にこぎつけた。

